

県内の患者数

	今週	前週		今週	前週
インフルエンザ	0	0	百日咳	0	0
RSウイルス感染症	26	33	ヘルパンギーナ	62	75
咽頭結膜熱	9	14	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	75	80
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	31	23	急性出血性結膜炎	1	0
感染性胃腸炎	216	215	流行性角結膜炎(はやり目)	20	20
水痘	19	31	細菌性髄膜炎	0	0
手足口病	142	181	無菌性髄膜炎	2	0
伝染性紅斑(りんご病)	6	5	マイコプラズマ肺炎	2	4
突発性発しん	35	39	クラミジア肺炎	0	0

報告が多い感染症

- 感染性胃腸炎
- 手足口病
- 流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)

- 感染性胃腸炎は、報告数 216件(前週報告数 215件)とほぼ同数であった。地区別では、人吉、山鹿、宇城に多く報告がみられる。年齢別では、1歳の44件を最多に幅広い年齢層から報告されている。
- 手足口病は、報告数 142件(前週報告数 181件)と減少。地区別では、八代、天草、菊池に多く報告がみられる。年齢別では、2歳の45件を最多に、15～19歳以下からの報告である。
- 流行性耳下腺炎は、報告数 75件(前週報告数 80件)と減少。地区別では、有明、菊池、熊本に多く報告がみられる。年齢別では、3歳の23件を最多に、10～14歳以下からの報告である。

◆◆◆保健所別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

保健所名	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎
熊本市保健所	0	9	5	14	46	5	32	4	10	0	10	31	1	15		2	1	
山鹿保健所	0	0	0	0	21	0	2	0	3	0	0	0	*	*				
菊池保健所	0	11	3	4	19	1	12	1	6	0	9	11		3				
阿蘇保健所	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	3	*	*				
御船保健所	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	*	*				
八代保健所	0	2	1	1	19	1	37	0	2	0	1	5						
水俣保健所	0	0	0	0	4	0	4	0	1	0	0	1	*	*				
人吉保健所	0	0	0	1	48	4	7	0	4	0	8	5	*	*				
有明保健所	0	0	0	1	27	2	8	0	8	0	2	14		2				1
宇城保健所	0	0	0	0	23	5	8	1	0	0	3	3						
天草保健所	0	4	0	10	3	1	32	0	1	0	29	2						
計	0	26	9	31	216	19	142	6	35	0	62	75	1	20	0	2	2	0

◆◆◆年齢別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

インフルエンザ定点	合計	0~5ヶ月	6~11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14歳	15~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80歳以上	
インフルエンザ	0																					
小児科定点年齢	合計	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14歳	15~19歳	20歳以上							
RSウイルス感染症	26	2	4	16	3	1																
咽頭結膜熱	9		3	2					1	1	1											
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	31			1	3	7	3	5	4	6			1		1							
感染性胃腸炎	216	5	24	44	15	20	11	10	13	9	11	5	24	9	16							
水痘	19	1		4	4	4	4	1	1													
手足口病	142	1	8	35	45	26	6	5	6	4		1	4	1								
伝染性紅斑	6			1			1	2	1				1									
突発性発しん	35		18	15	1			1														
百日咳	0																					
ヘルパンギーナ	62		4	16	12	10	9	2	3	2	1	2	1									
流行性耳下腺炎	75			8	7	23	8	11	4	6	2	2	4									
眼科定点年齢区分	合計	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14歳	15~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上		
急性出血性結膜炎	1					1																
流行性角結膜炎	20				1				1	1				1	5	5		1	3	2		
基幹定点年齢区分	合計	0歳	1~4歳	5~9歳	10~14歳	15~19歳	20~24歳	25~29歳	30~34歳	35~39歳	40~44歳	45~49歳	50~54歳	55~59歳	60~64歳	65~69歳	70歳以上					
細菌性髄膜炎	0																					
無菌性髄膜炎	2			2																		
マイコプラズマ肺炎	2		1				1															
クラミジア肺炎	0																					

**大きな流行が発生
又は継続しつつある地域**

- 手足口病：熊本・菊池・八代人吉・宇城・天草
- ヘルパンギーナ：菊池・人吉・天草

腸管出血性大腸菌

今週は、腸管出血性大腸菌感染症の報告が1件ありました。腸管出血性大腸菌は、例年、夏場に多く報告される病気ですが、昨年は9月～11月の3ヶ月間で35件(9月:7件、10月:17件、11月:11件)の報告があり昨年1年間の報告数(88件)の約4割を占めており、これからの季節も注意が必要です。腸管出血性大腸菌は、次の3つの特徴を持っています。

- ①強い感染力②強い毒性があり、重症化した場合には、腎臓や脳などに障害が起きることもあります。乳幼児や高齢者は特に注意が必要です。③潜伏期間が3～5日と長いことも原因がわからない場合が多くあります。

腸管出血性大腸菌は、本来動物の腸管内に住む菌で、その菌に汚染された食品や水を飲食することで人に感染します。さらに、調理用具を介してやタオルを共用することでも感染が広がることがあります。また、これまでに動物との「ふれあい体験」で感染したと推定された例も報告されています。腸管出血性大腸菌は、75℃で1分間加熱することで死滅します。生の食材と、加熱後の食品は必ず別の調理器具で扱うなどの注意をしましょう。また、動物との接触後には十分な手洗いを行いましょう。